

演題名：新型コロナウイルス感染症流行時の不妊治療に関する意思決定について

- 1) 松山 由紀子 (マツヤマ ユキコ)
- 1) 皆吉 田津子 (ミナヨシ タズコ) 1) 浅井 麻利子 (アサイ マリコ)、
- 1) 松岡 麻理 (マツオカ マリ) 1) 橋本 知子 (ハシモト トモコ)
- 1) 中岡 義晴 (ナカオカ ヨシハル) 2) 森本 義晴 (モリモト ヨシハル)
- 1) 医療法人三慧会 IVF なんばクリニック (イリョウホウジンサンケイカイ アイブイエフナンバクリニック)
- 2) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】

2020年新型コロナウイルス感染症が流行し、4月に日本生殖医学会から不妊治療の延期を選択肢として提示するよう推奨された。治療中の夫婦は、不安や葛藤を抱えていたと考えられる。今回、治療継続の意思決定について探索した。

【方法】

メールアンケート調査、期間：2020年5月13日～5月20日、対象者：2019年12月1日以降に受診した20代～40代の女性患者534名

【結果】

年齢別の有意差はなかった。学会からの声明をどう知ったかは、当院のアプリ等による通達が269名(50.4%) ニュース119名(22.3%) インターネット101名(18.9%) 医師から10名(1.9%)だった。声明を知ってどう思ったかは、従うのは難しいと思った290名(54.3%) 当然と納得した167名(31.3%) その他60名(11.2%) だった。治療の継続か延期の決断に関しては、夫婦で相談368名(79.7%) 自分で決断81名(17.5%) 医師と相談5名(1.1%) だった。治療継続したのは313名(58.6%) 延期は129名(24.2%) だった。延期の理由(複数回答可)は、感染予防、胎児への影響、緊急事態宣言発令、妊娠中の治療薬がない等だった。継続した理由(複数回答可)は、年齢、感染対策を行っている、生活環境、現時点で胎児へのリスクは高くないため等だった。自由回答欄には、クリニックからの報告がなければ夫婦で決断できなかった、判断材料が少なく個々で決断するには難しい、オンライン診療や電話相談希望等の意見があった。

【考察】

意思決定の情報源として、当院からの情報が役立ったと分かった。様々な不安や葛藤を抱えていることから、意思決定支援が必要な患者も多かったと考えられる。電話相談があった患

者には対応していたが、積極的に相談を受け付けると発信していれば、より多くの患者のケアに繋がったと考える。5月からオンライン診療を開始したが、周知が不十分だとわかった。周知を進めると共に、オンラインでの看護介入の課題を明確にし、意思決定支援に繋げる必要がある。